

## 挑戦するという『選択』

いま、大学生生活を振り返ると、私の中でたくさんの「やりたいこと」があったものの、最後まで完遂できたことは少なかったように感じています。しかし、私はこの現状を決してネガティブには捉えていません。なぜなら、完遂していないことは「諦めた」わけではなく、むしろこれからの「伸びしろ」だと捉えることもできるからです。とはいえ、大学に入る前から私がいまのようにポジティブだったわけではありません。その分岐点になったのが、この首藤ゼミでした。私にとって、ゼミに入るという「ちょっとした挑戦」が、自分を変えるきっかけになったのです。だからこそ、皆さんにもこれからの挑戦を大事にしてもらいたいと思っています。

私は現在、公認会計士になるために、日々、勉強に励んでいます。これは私の中で大きな挑戦ですが、当然人生の全てではありません。勉強の傍ら、ゼミ活動やアルバイトなど、資格試験以外にも様々な挑戦の機会を得ることができました。ここで皆さんに伝えたいのは、挑戦には「数」も「程度」も制限はないということです。大きな目標を設定して自分を高めるのも、小さな目標を乗り越え続けるのを選択するのは皆さんの自由なのです。

首藤ゼミでは挑戦が多く求められます。右を見れば、自らを高めようとしている仲間がいる。左を見れば、新たな取り組みに挑んでいる仲間もいる。私も、その情熱に背中を押されたおかげで、とても充実した日々を過ごすことができました。おそらく外からこのゼミを見たら、ここは大変そうな場所に見えるかもしれません。しかし、首藤ゼミの中にいるゼミ生である私や、すべての仲間から言わせてもらえば、大変は大変でも、自分に鞭打っているのはあくまで「自分自身」であり、それが自分の成長に繋がっていることを実感できて、とても楽しいと思っています。だからこそ、このゼミで求めるのは、自分の意思で行動する力、すなわち『人生を選択する力』であり、これこそが「挑戦」だと私は信じています。

自分の人生を受け身で過ごすのはあまりにもったいないです。自ら選び、挑戦する者こそが、自分の本領を発揮できる舞台に立てるのだと、私は思っています。もちろん、時には人に言われて選択をする道もあるでしょう。そんな時でも、全てが無駄だと思わず、あなたの成長につながる部分を伸ばして行ってください。無駄な時間など1秒もなく、その経験はきっと力になるはずです。

最後に、挑戦が怖いと感じているあなたへ、私からのアドバイスを送ります。

「今の私たちにとって、失敗しても失うものなどほとんどない！！だからこそ、失敗を恐れずに、挑戦を楽しめ！！」

2026年3月15日

首藤ゼミ第5期 Striver

小川 響